令和３年度 第１回飯山市図書館協議会　会議録

○開 催 日　令和３年６月４日（金）午後３時 30 分～4 時 45 分
○開催場所　飯山市公民館 103 会議室
○参 集 者　委員：西田裕香子（会長）　小澤洋子（職務代理）　小山正博　中村香織　前島憲一郎　堀崎典子　宮川友子　川口岳治　滝澤陽子
市側：松木英文（教育長）　桑原雅幸（文化振興部長兼図書館長）　井端伸介（図書館係長）　板倉桃子（図書館司書）

１　開　　会

２　辞令交付

３　あいさつ

教育長：　飯山市図書館事業に関して、建設的なご意見をたくさんお寄せいただき、非常に意義のある図書館事業推進にお力を頂きたい。

全国的に ICT 教育の推進が始まっている。飯山市でも小中学校の子どもにひとり一台タブレットを配布して、学校の授業や家庭学習で活用を始めているところだが、ゲームやネット情報に走りがちになることも危惧している。ICT の専門家は子どもが学習するためのツールであって、基本は読書をするとか、友達と対面で話し合って協調していくことが学習の根底として大事であると言っていた。それをしっかりやって ICT を活用するような子供になってほしい。

　まじめに勉強しているのに、なぜか学力が伸びない、どうしてなのかと疑問に思う学校もある。調べたところ、子どもたちが正しく読めていないということが分かってきた。読解力を高める学習を１からやっていくという学校もある。ICT も大事であるが、そういったことに視点を置いてやっていき両方の取り組みをやっていきたい。読むという体験や学習、読むことが楽しいという意識づけは子どもをはじめ、大人にとっても大事なことであるため、大きな課題の一つと考えている。

今年から移動図書館車が新しくなる。図書館が市民にとって読書活動の憩いの場となるよう、事業報告、事業計画についてご意見を頂くことになるが、ご協力をよろしくお願いしたい。

４　自己紹介

５　役員の選出等

（１）会長の選出

互選により、西田委員

（２）職務代理の氏名（会長より氏名）

会長の指名により、小沢委員

６　協議事項　※委員からの主な質問、意見及び事務局の回答等

（１）令和２年度事業報告について（確認）

事務局：　（次第と資料のとおり説明）

（２）令和３年度事業について（確認）　※委員からの主な質問、意見及び事務局の回答等

事務局：　（次第と資料のとおり説明）

令和２年度の利用者数に関して、資料のとおり説明。

年間を通した貸出冊数・利用者数は新型コロナウイルスの影響で令和元年度と比べ冊数は15600 冊ほどの減、利用人数は 5000 人ほどの減になる。この差は新型コロナウイルスの影響で臨時休館になったり、行事の中止等により多くの方においでいただくのが難しくなったりしたことで全体の数が減っていったとことになると思われる。

（３）その他

事務局：　特別お諮りしたいことはないが、意見等あればお願いしたい。

会　長：　これだけの人数なので、遠慮なくご意見いただきたい。

委　員：　ブックスタートにどんな本を差し上げているのか教えていただきたい。

事務局：　4 ヵ月検診の際に候補の本 5 冊の中から 1 冊ご自分で選んでいただく形をとっている。

委　員：　別の市ではセカンドブック制度がなく、飯山市では 2 冊絵本をもらえて嬉しい。セカンドブックでは 10 冊の中から選べてとても良い。予算の関係で難しいと思うが小学校に上がるタイミングなどで 3 冊目、4 冊目で絵本をまたもらえると嬉しい。とても良い取り組みなので、広められたらいいなと思う。

会　長：　ブックスタート・セカンドブックなどで絵本を子供に支給されるのは子どもたちが本に取り掛かる、きっかけの一つ。ありがたい取り組みなので、引き続き続けていってほしい。

事務局：　続けていければと思っている。

委　員：　先ほどの教育長のあいさつで、子どもたちの読解力が足りないとおっしゃっていたが、どのように取り組めばよいのか。分析は行っているのか。

教育長：　２年生の主語のない文を６年生が正しく読み取れない、ということがあった。主語述語の関係をしっかり押さえられる読み方をさせないといけないということで研究をしている。

委　員：　図書館の読書の普及、その中でも新たな分析していく事業の転換に差し掛かっているのではないか。もっと頑張る必要があるのではないか。読み聞かせは非常に大事なので、まずは親の読み聞かせから。

委　員：　保育園としても、家の人と一緒に読むように園だよりなどで発信していけたらと思う。

教育長：　小さい子は母親と眠る時に読み聞かせをしてもらってから寝ることがある。そういう経験はとても良い。本を読む機会が多いと文脈から何を言いたいのか、自然と分かってくる。読むチャンスがたくさんあることが大切。

委　員：　実際の学校の現場はどのような状況か。

委　員：　図書館の授業を実際に見た際に中学校だと授業にあまりかかわりがないと感じていた。

市立図書館から調べ学習をする際、学校図書館にない本を借りて調べ学習に役立たせるということはある。中学生は意外と読み聞かせを楽しみにしている。そういうことも取り入れながらやっていきたい。

教育長：　まずは小さいころからの読書で本に親しんで基礎にしていきたい。

委　員：　読み聞かせ自体が仕事しているお母さんたちは忙しいので厳しいのではと思う。市立図書館はおはなしひろばがあり、司書の人たちが楽しく読み聞かせしてくれたので、子どもは自然に本の世界に入れた。仕事があり忙しくて図書館に連れてこられない。子どもと本をつなぐのは親だが、親が本を読まないと子どもにはつながらないのかなと思う。中学校で読み聞かせをしてくれたのはすごく好評で、子どもが喜んでいた。学校で読み聞かせをしてくれるのはありがたい。

会　長：　アナログだったものがデジタルにどんどん変わっていく。タブレットひとつで子育てができてしまう。図書館に来る子連れのお母さんが数年前より少なくなっている気がする。仕事も共働きで忙しいのかなと思うが、1冊でもいいから子どもが関われることが大切かなと思う。

委　員：　共働きで忙しいというのもあるが、小さい時から習い事などをしている子が多い。体を動かすことも大事だが、もっと本に関わる事も大事。働いていて忙しいが読書に熱心な母親もたくさんいるので学力、読解力などいろんな面をアピールすれば、子どもも興味を示すのでないか。

事務局：　今日と来年の2回しか会議がありませんが、こうしたらいいんじゃないかというものがあれば、遠慮なく職員に伝えていただきたい。

7　閉　　会